

福岡市における有害大気汚染物質モニタリング調査結果の解析

環境科学課 副田大介・佐野七穂・松本弘子

全国環境研会誌, 47 (2), 21-26, 2022

福岡市における有害大気汚染物質の経年変化や測定地点の特徴把握を目的としてモニタリング結果の解析を行った。有害大気汚染物質の経年変化は、調査初期である平成10年度のベンゼンを除き、環境基準等を超過した物質はなく、1,2-ジクロロエタンを除いて減少もしくは横ばいの傾向を示した。また、地点間の違いを調べるために、因子分析を行ったところ、本市の大気に影響を及ぼす因子として、工業由来や自動車排出ガス、二次生成の影響を表す因子が推定され、因子得点によるクラスタリングを用いることにより、地点間の類似性やそれぞれの地点ごとに影響を与えている因子が明らかとなり、特に自動車排出ガスや二次生成の影響によって地点間の特徴が異なることが示唆された。